

■ミュージアムで遊ぼう！ Part 3 2F

ユーラシア横断アニマル・クイズ

Find Animals in Art across EurAsia

2007年1月14日(日)～4月26日(木)

Sunday Jan. 14 to Thursday Apr. 26, 2007

参加された方には「オリジナルシール」をプレゼント！

Discover animal designs and get original EurAsian animal stickers (complimentary)!

参加費無料(入館券が必要です)

Free with Museum Admission

これは何の動物だろう？



■企画展 Special Exhibition 3F

—シルクロードへの誘い— 萩野矢慶記写真展
青い煌き ウズベキスタン

写真と美術工芸品でたどる世界遺産の過去と現在
“The Blue Splendors of Uzbekistan”

—Journey to the Silk Road Oases through Works of Art and Photographs—

2007年4月28日(土)～9月2日(日)

Saturday Apr. 28 to Sunday Sep. 2, 2007

入館料 一般500円、小・中学生250円

Admission Adults 500 yen, Children 250 yen

企画展関連イベント

体験・夏休み企画「さわれる展示：
民族衣装を着てみませんか！」

2007年8月1日(水)～31日(金) 10時～16時

萩野矢慶記ギャラリートーク

2007年7月7日(土)、9月1日(土) 14時～(予定)

参加費無料(企画展入館券が必要です)

利用案内 Visitor Information

横浜ユーラシア文化館

Yokohama Museum of EurAsian Cultures

〒231-0021 横浜市中区日本大通12
12 Nihon Odori, Nakaku, Yokohama, Japan 231-0021
Tel.045-663-2424 Fax.045-663-2453
http://www.eurasia.city.yokohama.jp/

開館時間 9:30 a.m.～5:00 p.m.

(入館は4:30 p.m.まで)

休館日 毎週月曜日・年末年始ほか

入館料 一般200円

小・中学生100円

企画展開催時には別料金になることがあります。

毎週土曜日は小・中学生、高校生無料。
「障害者手帳」横浜市の「長寿のしおり」
等をお持ちの方は、入館料の減免制度
についてお尋ねください。

Hours 9:30 a.m.～5:00 p.m.

(Admission until 4:30 p.m.)

Closed Mondays and year-end/
New Year's recess

Admission ¥200 for adults

¥100 for primary and
junior high school students



Map in English → Website

交通アクセス

みなとみらい線日本大通り駅3番出口から徒歩0分
JR関内駅南口・市営地下鉄関内駅1番出口から徒歩約10分
Zero min. walk from Nihon Odori Sta. on the Minato Mirai Line.
10 min. walk from Kannai Sta. on the JR Line or Municipal
Subway.

臨時休館・開館のお知らせ

4/27(金)は展示替えのため休館します。

4/28(土)～5/6(日)は休まず開館します。

Closed on 4/27 (Fri), Open on 4/30 (Mon).

News from EurAsia No.7

横浜ユーラシア文化館ニュース第7号

企画・編集・発行 横浜ユーラシア文化館 2007年3月15日

デザイン/南オフィスエルク

印刷製本/ソルミ印刷株

禁無断転載

©2007 Yokohama Museum of EurAsian Cultures



News from EurAsia

横浜ユーラシア文化館ニュース

■目次 Contents

アートウォッチング p.2

Art Watching

グーリ・アミール廟

Guri Amir

萩野矢慶記 Keiki Haginoya

ギャラリートーク p.4

Gallery Talk

楔形文字粘土板文書(1)

Cuneiform-Inscribed Clay Tablets (1)

鶴岡宜規 Yoshinori Tsuruoka

中央アジアをめぐる国際情勢

——第二次グレート・ゲーム p.6

The Second Great Game over Central Asia

廣瀬徹也 Tetsuya Hirose

展覧会・イベントのご案内 p.8

Special Exhibitions and Events

利用案内 p.8

Visitor Information

Art Watching

アートウォッチング

ゲーリ・アミール廟

Guri Amir



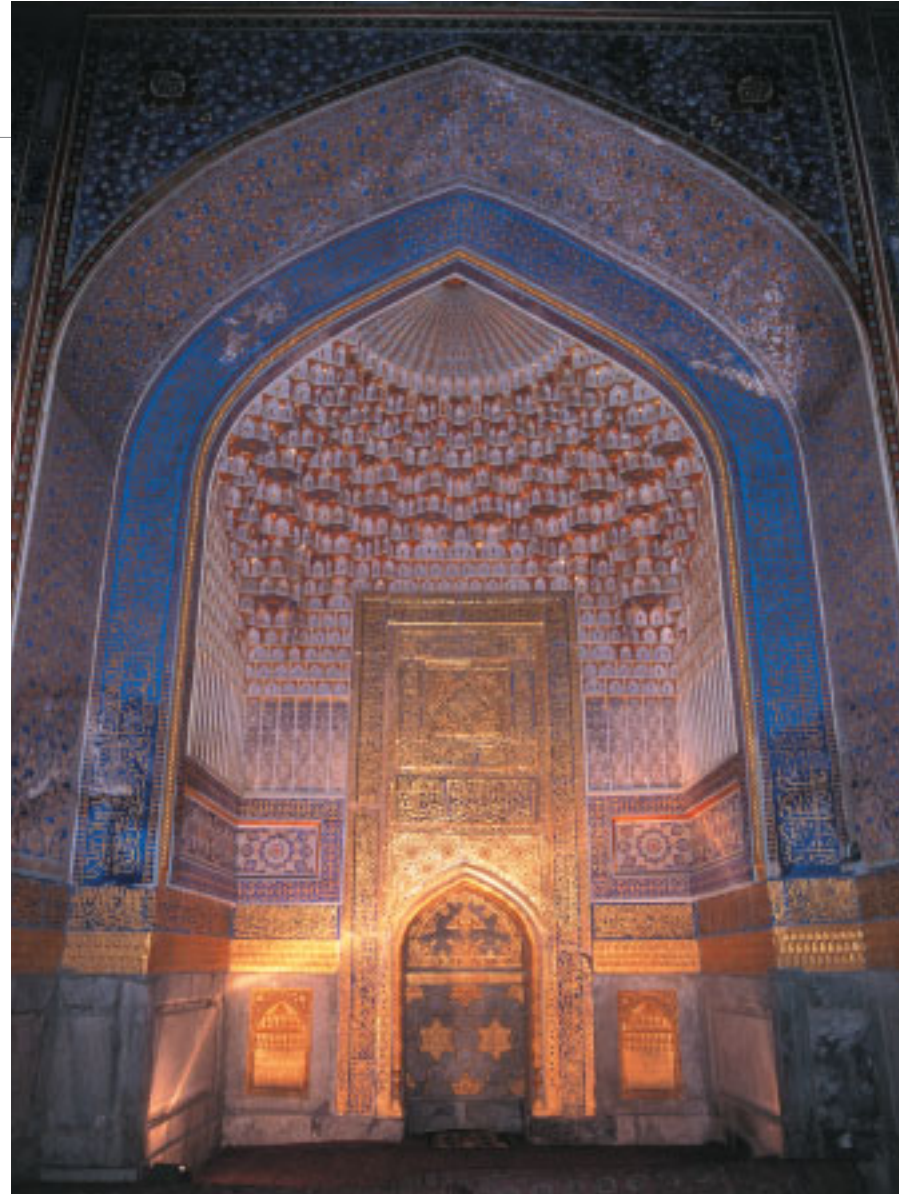
萩野矢慶記 文・写真
Essay and Photos by Keiki Haginoya
(写真家 Professional Photographer)

中央アジアの往古の街サマルカンドは、かつて興廢の歴史が繰り返されたが、いつの時代も繁榮した美しい都であった。現在サマルカンドが誇る遺跡群はティムール帝国時代のものである。1336年、現在のシャフリサブズで生まれたティムールは、相次ぐ闘いで覇者となり、インドから地中海に跨る巨大な帝国を築いた。サマルカンドを世界にふさわしい首都とし、各国から商人が集まる貿易市場や、新しい建築構造物でティムール朝文化の花を咲かせた。しかし、明国への遠征途中に病を發し、1405年、70歳で歿し、サマルカンドのゲーリ・アミール廟に葬られた。

14世紀末からのこの建物は未来の政治家や軍人を育成する学校であったが、ティムールが埋葬されてから閉鎖的なティムール一門の墓廟に変わった。玄関門は鮮やかな青紫の色調で繊細なモザイクが施され、本殿にはひとときわ青さが煌く壮大なドームが聳え立つ。これはティムール帝国の新たなスタイルを意味している。八角形の内部中央にティムールの黒緑色の墓石が置かれ、その周囲に彼の師や息子、孫たちなど三代にわたる墓石が並ぶ。

実際の墓室はこの地下に造られ、小部屋だが同じ墓石の配置になっている。ティムールの墓石は軟玉製でコーランがぎっしり刻まれ荘重な迫力を感じる。1941年に初めてこれらの墓が開けられたが、ティムールの亡骸は右足が短いことが分かり、「びっこのティムール」といわれた由来が判明した。

Samarqand, one of the oldest cities of Central Asia, saw great cultural achievements as the capital of the empire of Timur (b.1336). The remaining plan of the old city contains some of the finest monuments of architecture, including Timur's tomb the Guri Amir Mausoleum (ca. 1405). It is renowned for the blue chapel dome and the mosaics with elegant turquoise arabesques.



企画展
Special
Exhibition

シルクロードへの誘い 萩野矢慶記写真展
青い煌き ウズベキスタン
写真と美術工芸品でたどる世界遺産の過去と現在
“The Blue Splendors of Uzbekistan”

— Journey to the Silk Road Oases through Works of Art and Photographs —

2007年4月28日(土)～9月2日(日) Saturday Apr. 28 to Sunday Sep. 2, 2007
入館料 一般500円、小・中学生250円 / Admission Adults 500 yen, Children 250 yen

萩野矢慶記ギャラリートーク 7月7日(土)、9月1日(土) 14時～(予定)

Gallery Talk ギャラリートーク

楔形文字粘土板文書(1)

Cuneiform-Inscribed Clay Tablets (1)

鶴岡宜規 Yoshinori Tsuruoka
(中央大学大学院生 Postgraduate of Chuo University)

楔形文字という名称はこの文字が楔を並べたような形のため命名されました。楔形文字は紀元前3200年から約3000年の間メソポタミアにおいて使用され、主に粘土に葦で作成したペンで書かれました。

最初に記録された内容は家畜や穀物など経済の管理に関するものです。これは楔形文字の始まりが神話などではなく、実際的なこと

を記録するためであったことを意味します。時代を経るごとに様々な内容の粘土板が作成されました。例えば、王の業績を記した王碑文、商人間のやり取りが書かれた手紙、裁判記録、料理のレシピ、人類の創造を描いた文学作品、「楽しいこと、それはビール、嫌なこと、それは遠征」のような現代においても通用する格言など、その内容は多岐にわたります。このように様々な内容の史料があることによって、政治状況から社会、さらに当時の人々の世界観まで知ることができます。

今回は、横浜ユーラシア文化館が所蔵する粘土板に何が書かれているかを紹介します。

■実物の大きさ Original size
2.3 cm



This writing system takes the name cuneiform from the wedge-like appearance of the strokes impressed onto the clay surface with slanted stylus edge. It was used in ancient Mesopotamia from about 3200 B.C.E. for approximately three thousand years. The earliest writings were of practical nature concerning grain and livestock, rather

than religious. Later, the contents of the inscriptions began to vary from royal to plebeian, or from cookery to the creation of mankind. One Sumerian proverb, for example, roughly translates to: "The pleasure - it is beer! The discomfort - it is the journey" (see B.Alster, *Proverbs of Ancient Sumer*).

English abstract by Yasuko Fukuhara



中央アジアをめぐる国際情勢

—第二次グレート・ゲーム

The Second Great Game over Central Asia

廣瀬徹也 Tetsuya Hirose

1991年末ソ連の崩壊で中央アジアやコーカサスの諸国が独立して以来、政治的影響力の確保とカスピ海地域の石油・天然ガスの開発とパイプラインの建設をめぐる、ロシア、米国を筆頭に地域大国たるトルコ、イラン、さらに近年は中国も加わり激しい勢力争いが展開されてきました。19世紀後半の帝国主義時代にアフガニスタンや中央アジアをめぐるロシア帝国と大英帝国の間で行われた「グレート・ゲーム」と称する勢力争いになぞらえて、「第二次グレート・ゲーム」と呼ぶ人もいます。日本の企業もカスピ海の石油の開発やアゼルバイジャンのパクーからグルジアを経てトルコの地中海岸のジェイハンに至るパイプラインの

建設に参加しています。

スウェーデン、ウプサラ大学中央アジア・コーカサス研究所のクリストファー・レン氏は近年の大きな動きとして、1) 2001年中国、ロシア、中央アジア四か国による上海協力機構の設立とその発展、2) アフガニスタンの再建、3) ロシアによる中央アジアでの影響力再構築の試み、4) エネルギー、貿易、安全保障面での中国と中央アジアの関係の増大、そして、5) 2004年の「中央アジア+日本」対話の開始の5つをあげています。

2001年、9・11事件の後、米軍とその同盟軍はアフガニスタンを攻撃する際に、その裏庭ともいえる中央アジアの三か国とそれらの国の軍事基地の使用に合意しました。中国は東トルキスタン（新疆ウイグル自治区）の独立運動、ロシアはチェチェンの独立運動をそれぞれ国内に抱えていて、それをテロだと国際的に認めさせるため、「テロ対策ならどうぞ」とソ連時代では考えられなかった米軍の中央アジア駐留に賛成したのです。しかし米軍等の攻撃でタリバーン政権が倒されて軍事作戦が一

段落し、アフガニスタンが再建の道を歩み始めると（本誌第4号、第5号ご参照）お互いライバルなのに中央アジアにおいて米国の影響力が増大するのを望まない点では利害の一致する中国とロシアは上海協力機構を通じて、基地を貸与している中央アジア諸国に米軍の撤退を求めるよう圧力をかけました。結局2005年秋、米軍はウズベキスタン政府の要求で撤退しました。その背景にはウズベキスタンのカリモフ大統領の人権弾圧に欧米日、特に米国が批判を強めていたのに対し、中露はカリモフ政権支持を明らかにしたため、2000年頃までは反ロシア的だったウズベキスタンは基地使用料が入るので、撤退を要求せず、米軍または同盟軍が残っています。地政学的に重要な中央アジアをめぐる国際情勢の動きからは目が離せません。

日本政府は米国追随ではない独自の「対シルクロード地域外交」を進めて、中央アジア・コーカサス諸国との関係強化をはかってきましたが、2004年8月、中央アジア地域全体との対話を進める「中央アジア+日本」対話を開始しました。この枠組みで、日本は、中央アジア諸国が環境、水資源の有効利用、輸送など地域共通の課題に協力して取り組むのを助けています。レン氏は「ゲーム」には参加しない日本のこういう地道な努力を高く評価しているのでしょうか。大事なのは、域外の大国ではなく、中央アジアの国々自身が中央アジアの主役であることです。

Since the independence of the Central Asian and Caucasus countries, the area became a stage of such severe competition by foreign powers over political influence and exploitation of energy resources of the Caspian Region and construction of pipelines as sometimes referred to as the Second Great Game compared to the “Great Game” played by the Russian and the British Empires in the 19th century.

Mr. Christopher Len of the Central Asia-Caucasus Institute of Uppsala University says that in recent years, we have witnessed great change in the region and its surrounding areas, namely: (1) the creation of the Shanghai Cooperation Organization in 2001 and its current progress, (2) the reconstruction of Afghanistan, (3) Russian attempts to re-assert itself in Central Asia, (4) increasing Chinese energy, trade and security links with the Central Asian region, and finally (5) the launch of the “Central Asia Plus Japan Dialogue” in August 2004.

Under this initiative Japan assists efforts of Central Asian countries in tackling the tasks which require intra-regional cooperation such as environment, water and transportation. The leading role must be played by none other than the countries of Central Asia themselves.

廣瀬徹也 Tetsuya Hirose

アジア・太平洋国会議員連合中央事務局事務総長。元駐アゼルバイジャン大使。Secretary-General, the Central Secretariat of the Asian-Pacific Parliamentarians' Union. Retired Ambassador.



ウズベキスタンにて [写真撮影：萩野矢慶記]
In Uzbekistan [Photograph by Keiki Haginoya]